TADOKU JUNIOR 自然のふしぎ神話 ★★☆☆☆ みじかい 169語

The Fox and the Stork

キツネとツル

Flora J. Cooke（1895年の本） 原文そのまま 朗読：Linette Geisel

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？ キツネはツルをごちそうによびますが、スープを平たいお皿に入れて出しました。次の日、こんどはツルがキツネをよんで……。



Afox met a stork and invited him to dinner.

“With all my heart, friend,” said the stork.

When they arrived at the home of the fox and dinner was served, he was not so happy.

The fox had fine hot soup, but he served it in shallow plates.

The poor stork could only stand by and watch the fox eat.

The fox seemed to think that it was a very good joke.

The next day the stork met the fox and invited him to dinner. The stork brought out fine hot soup in a high narrow necked bottle, but the fox could not see the

joke at all.

The stork said, “Friend fox, enjoy your dinner. I hope that the soup is as well flavored as yours was yesterday.”

As he said this he poured out half of the soup into a bowl and set it before the fox.

The cunning old fox felt so ashamed that he has never looked anyone straight in the face since that day.

和訳 キツネとツル（The Fox and the Stork）

キツネがツルに会って、ごちそうによびました。

「よろこんでうかがいますよ、キツネさん」とツルは言いました。

キツネの家に着いて、ごちそうが出されると、ツルはあまりうれしくありませんでした。

キツネはおいしいあついスープを用意していましたが、それを平たいお皿に入れて出したのです。

かわいそうなツルは、ただそばに立って、キツネが食べるのを見ているしかありませんでした。

キツネは、それがとてもおもしろいじょうだんだと思っているようでした。

次の日、ツルはキツネに会って、ごちそうによびました。ツルは、おいしいあついスープを、首が細長い高いびんに入れて出しました。でもキツネには、ちっともおもしろいじょうだんだとは思えませんでした。

ツルは言いました。「キツネさん、ごちそうを楽しんでくださいね。きのうのあなたのスープと同じくらい、おいしい味だといいのですが。」

そう言いながら、ツルはスープの半分をおわんにそそいで、キツネの前においてやりました。

ずるいキツネはとてもはずかしくなって、その日から、だれの顔もまっすぐに見られなくなってしまったのです。

たんご と クイズ キツネとツル

fox キツネ	**stork** コウノトリ（ツル）	**soup** スープ
plates お皿	**bottle** びん	**bowl** おわん

Q1 キツネは、スープを何に入れて出した？

① 高いびん　② 平たいお皿　③ コップ

Q2 さいごにツルは、キツネのためにどうした？

① スープの半分をおわんに入れてあげた　② スープを全部飲んでしまった　③ キツネをおいかえした

こたえ

Q1 ②　キツネは平たいお皿にスープを入れたので、くちばしの長いツルは食べられませんでした。

Q2 ①　ツルは、スープの半分をおわんにそそいで、キツネの前においてあげました。キツネははずかしくなりました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #30800（Flora J. Cooke、1895年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Linette Geisel（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。